

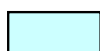
■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟増築工事	BEE	#N/A

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.7 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	##### /5		#DIV/0!
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!
[*] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.7	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.8
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 #DIV/0!	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 #DIV/0! 主な指標	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0
<自由記述>		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0
		外構緑化指数	5 %
		建物緑化指数	0 %



:入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年4月26日
敷地面積	66,099 m ²	作成者	轟夏
建築面積	6,684 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	12,275 m ²	確認者	○○○



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
計画地の特性を活かし、PUEの低減を目指し、ラック数の多く確保できる計画とする。		
Q1 室内環境 メンテナンス作業に対する照度環境を確保した計画。	Q2 サービス性能 将来の余剰スペースを確保したゆとりのある平面断面計画。	Q3 室外環境(敷地内) 既存建物と調和する色彩や材料を採用。
LR1 エネルギー 外気高度利用による徹底したエネルギー消費削減	LR2 資源・マテリアル N2ガス消火を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避した計画	LR3 敷地外環境 燃焼機器を一切使用せず、大気汚染へ配慮した計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ヤフー北九州データセンター9号棟 増築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0				
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能		記入例:エアフローウインドウの採用						
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御						3.0		
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口						3.0		
3 昼光利用設備						3.0		
3.2 グレア対策								
1 昼光制御						3.0		
3.3 照度						3.0		
3.4 照明制御						3.0		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質						3.0		
4.2 換気								
1 換気量						3.0		
2 自然換気性能						3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0		
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能					0.43			4.2
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画						3.0		
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性				3.6	0.50			3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		30年以上		5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年以上		5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷水配管は配管用炭素鋼鋼管(白)を使用		#####	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				4.2	0.20			
1 空調・換気設備		地震時に機能停止しない。災害時は負荷容量を下げても運転可能。		4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		給水配管の系統を分ける。受水槽は二基を分離して配置。		3.0	0.20			
3 電気設備		無停電電源設備を設置		5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20			
5 通信・情報設備		2ルートからの引き込み。		4.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.8	0.50	-	-	4.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高5.0m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.097	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		床耐荷重4500N/m2以上	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		将来対応スペース、バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		-	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		年間エネルギー消費量の目標値を設定	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4.1 モニタリング		-	3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		-	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント:杭に使用	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		-	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		N2消火と使用している。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.33	-	-	
3 冷媒		R32冷媒の空冷チラーを使用する。	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止		-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		-	2.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		-	3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			4.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物を設置しない	4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		ガラスなど、高反射の材料の不使用	4.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

ヤフー北九州データセンター9号棟 増築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-													
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-													
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-													
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	-	-	○	○									
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	-	○	-	○	-	-	-						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	○	○	-	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	7.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム 4.0	屋根 2.0	外壁 2.0
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
屋光率	1.5%	η AH	-
自然換気有効開口面積率	3.3%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	0.0㎡/人	病床	0.0㎡/床	シングル	0.0㎡ ツイン	0.0㎡
--------	--------	----	--------	------	----------	------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/㎡
---------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	0 m
----	-----

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	0.0%
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	- N/m2
-----	--------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
--------	----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	20%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	対象外	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	-----	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%
--------------	---------	-----------	-------	-----------	-------

通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%
-----------	-------	-----------	-------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	-	住宅	-	太陽光	0.0kW	太陽熱等	0.0kW	蓄電池	0.0kW
----------------------	-----	---	----	---	-----	-------	------	-------	-----	-------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430
---------------	---	--------------	------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1000
---------------	---	--------------	------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1000
---------------	---	--------------	------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	64%	隣棟間隔指標Rw	1.89
地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	10.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	760㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	81.2 m
		基準高さH _b	14.4 m
緑地	㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	200㎡
		再帰性反射対策面	300㎡